

# 祝 同窓会設立100周年1917~2017

## ~4月16日(日)に記念礼拝・祝賀会~

### 九学同窓会

100周年特別号

発行人・山崎恒雄  
 編集人・小手川勲  
 熊本市中央区大江5丁目2-1  
 九学会館(1985年竣工)  
 096-366-4533  
<http://www.kyugakudousokai.jp/>

題字は  
 紫垣正弘・元同窓会会長



### 熱い祈りと献金で学院が誕生

#### 九州創立百周年は2011年

九州学院は、アメリカのキリスト教会(ルター派)から派遣された宣教師チャールズ・L・ブラウン博士らの熱心な呼びかけにこたへたアメリカの教会の人々の熱い祈りと献金によって生まれました。

1991年の創立80周年を機に男子校から共学となり、現在の卒業生は約3万人を数え、社会のあらゆる分野で活躍中です。2011年に創立100周年の大きな節目を迎え、創立の精神に立ち返りつつ九州学院の新たな世紀に向けて、たゆみない発展を続けています。

**同窓会は1917年に発足**  
 (旧制第2回の卒業式後)

九州学院同窓会は、九州学院創立から6年(1911(明治44)年)後の1917(大正6)年に遠山参良初代院長によって設立され、今年100周年を迎えます。

1917年12月25日に発行された、九州学院学友会の「大江」第4号の「卒業生だより」に次のような記事が掲載されています。

「大正6年3月13日の第2回の卒業式(旧制中学は5年制)の後、午後3時より卒業生大会が開かれ、第1回、第2回の卒業生合わせて80名が参加。遠山院長が同窓会の必要性を説き、「九州学院同窓会規則」の草案について長時間の審議。後日修正の後卒業生会で決議(抜粋要約)。

以来、歴代院長が同窓会長を務め、学院主体の同窓会運営が60年余り続きます。

**「新制部会」を結成**

1979(昭和54)年頃から、創立70周年が近づくに連れ、新制高校の初期の同窓生の

間から同窓会の活性化を図りたいとの気運が高まり、同窓会を活性化させるにはどうしたらよいかと夜毎学院に集まり熱心に討議が続けられました。その結果、若い同窓生の同窓会活動に対する意識喚起を図るために、戦後の新制の卒業生中心に同窓部の部会として「新制部会」を結成して同窓会の中核的な活動をしようという事になりました。川瀬同窓会長の了解を得て発足に至りました。

平井英雄氏(旧制34回、新制1回)を新制部会長とし、組織、委員、支部、企画、広報、英奨学、募金などの委員会が作られました。

1980(昭和55)年1月3日、旧制の先



同窓会事務室のある九学会館

### 卒業回数 S・Jの意味は

#### ~今年の卒業生はS69回とJ67回~

九州学院では、1916年の卒業生(1911年入学)が5年制の旧制中学校第1回(卒)であり「旧1回」と呼ばれ、「旧制」は1949年の卒業の第35回(1944年入学)まで続きます。戦後の教育改革により新制高校・中学校と変わったことから、1949年の新制高校の第1回の卒業生(1946年入学)からはSenior(高校)の頭文字をとってS1回、新制中学校卒業生は1948年が第1回となり、J(Junior)1回と呼ばれるようになりました。2017年の卒業生はS69回(卒)とJ67回(卒)です。

### 同窓会設立参画の先人に感謝

#### 九州学院同窓会会長 山崎恒雄氏(S21回)

熊本震災の影響は、今も尚あらゆる方面に及んでいます。九州学院も様々な支援を受けて、復興に向けての一步を踏み出しました。卒業生の皆様にもご心配や、寄付などを頂きました事に心より御礼申し上げます。尚、卒業生で被災されました方々へも心からお見舞い申し上げます。

さて、同窓会設立100周年を迎えるにあたり、その設立に奔走された初代院長、遠山参良先生と参画された第1回、第2回の卒業生有志の方々に敬意を払いたいと思います。長年、同窓会設立の時期は定かではありませんでしたが、実は、当初の設立経緯が九州学院学友会の「大江」(1917年発行)の中に詳しく書かれていたのです。そして、その記事を前同窓会参与の小崎義昭先生(S4回)が九州学院の資料を整理されている時に見つかったのです。同窓会が設立されてまさに百年。遠山先生を名実ともに敬愛し、慕うわれら同窓生のルーツです。「九州学院同窓会設立100周年記念式典」に皆様方の参加をお願い申し上げます。

### 「大同窓会」がスタート

新制部会の活動とともに同窓会全体が活動的になり、やがて新制部会と従来の同窓会が一体化することとなりました。

同窓会設立百周年の祝賀会に先立ち、午後1時半から九州学院ブラウン・メモリアル・チャペルにおいて小副川チャペレン・副院長の司式で「特別記念礼拝」を行います。その後、4時から、熊本ホテルキャッスルで「総会」を開催します。記念講演として元五輪競泳選手の吉無田春男氏(S10回)を講師にお迎えしています。吉無田氏は九州学院中学・高校で学んだ後に早稲田大学に進学し、ローマ



### 同窓会設立100周年祝賀会

期 日: 2017年4月16日(日)

記念礼拝: 13時30分 <於:九州学院  
 ブラウン・メモリアル・チャペル>

総 会: 16時

祝 賀 会: 16時50分 <於:熊本ホテルキャッスル>

会 費: [一般券] 男性8000円・女性4000円  
 [シニア券] S12回以前の同窓生...4000円  
 [ヤング券] S58回以降の同窓生...4000円

\*チケットは各学年の常任幹事、実行委員が取扱います。  
 (お問い合わせ先: 同窓会事務室・096-366-4533)

### 百周年祝賀会

#### 特別記念礼拝や吉無田氏の講演会も

4月16日(日)

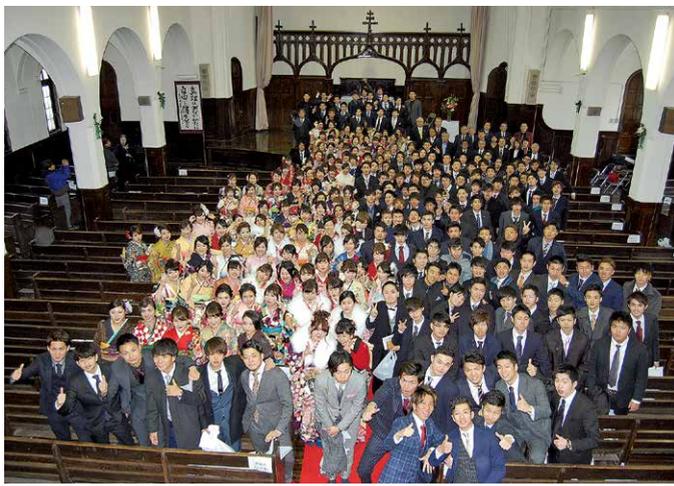
同窓会設立百周年の祝賀会に先立ち、午後1時半から九州学院ブラウン・メモリアル・チャペルにおいて小副川チャペレン・副院長の司式で「特別記念礼拝」を行います。その後、4時から、熊本ホテルキャッスルで「総会」を開催します。記念講演として元五輪競泳選手の吉無田春男氏(S10回)を講師にお迎えしています。吉無田氏は九州学院中学・高校で学んだ後に早稲田大学に進学し、ローマ

- ### 同窓会(九州学院)の歩み
- 1910 九州学院設立認可(1月19日)
  - 1911 遠山参良初代院長就任
  - 1914 校訓を「敬天愛人」に定める
  - 1917 同窓会初代会・設立  
遠山参良院長同窓会会長就任
  - 1925 ブラウン記念礼拝堂竣工
  - 1946 川瀬清同窓会会長就任
  - 1948 学制改革により九州学院高等学校設置認可
  - 1961 創立50周年記念式典を挙行
  - 1962 本館(1号館)竣工
  - 1966 池永春生同窓会会長就任
  - 1968 総合体育館竣工
  - 1970 敬愛寮(東棟)竣工
  - 1977 紫垣正弘同窓会会長就任
  - 1980 第1回新制部会総会を開催
  - 1982 川瀬清同窓会会長就任(再任)  
徳王グラウンド(野球場など)竣工
  - 1985 九学会館竣工
  - 1986 敬愛寮(西棟)竣工
  - 1991 男女共学に移行 3号館竣工
  - 1995 松村敏人同窓会会長就任  
全天候型トラック(第4種公認競技場)竣工
  - 1999 プール、徳王屋内野球練習場竣工
  - 2003 中学校新校舎(4号館)竣工
  - 2011 創立百周年記念式典挙行  
新体育館竣工
  - 2014 山崎恒雄同窓会会長就任
  - 2017 同窓会設立百周年記念祝賀会を開催

# 若手の会主催 「チャペル成人式」

## 250人が新たな旅立ち

1月9日(月)、今年成人を迎える九州学院卒業生(S67回およびJ65回)の成人式を、九州学院チャペルにおいて行いました。この成人式は九州学院同窓会若手の会が主催するもので、今年で4回目となります。毎年参加者が増え、今年は250人が集まりました。小副川チャペルの司式で成人式の祝福礼拝が行われ、



# 母校の同窓会百周年に寄せて

東京九学会会長  
島本 誠(S30回)

同窓会創立100周年、まことにおめでとうございます。

人間としての根幹を育む中高生世代を私たちは九学というかけがえのない環境で過ごさせていただきました。私自身50歳を過ぎた今でも、九学時代に培った精神構造は少しも変わっておらず、「敬天愛人」「自分で自分を監督し役に立つ善人となれ」の校訓や先生方からいただいた数々のご教示も、これまでの様々な場面で良い方向に導いてもらう指標となりました。

「母校はありがたい」同じ思いの同窓生が時代ごとに結集し、100年という歴史が積み上げられてきました。その時々に関わってこられた多くの先輩方に心からの敬意を表する次第です。

震災は大きな試練となりましたが、前向きに歩む同窓生結束の象徴として、皆様とともにこのめでたき100周年をお祝いさせていただきたいと思っております。



関西九学会会長  
原田 敬策(S28回)

同窓会100周年、おめでとうございませう。

私が、九州学院同窓会関西支部(現、関西九学会)を知り得たのは、20年ほど前、職場の先輩から「奈良県熊本県人会」に誘われて出かけたときのことでした。県人会役員の方から、

出身高校を聞かれ、「九学です。」と答えたところ、「九学ね。そんなら、先輩がおらすけん紹介するわ。」と言って「合志邦博(S8回)先輩」を紹介されました。それがきっかけで毎年同窓会に参加させていただくようになり、今に至っております。

昨年の震災の時は私も熊本(東区保田窪)にいて被災しました。復興までにはまだまだ時間がかかるとは思いますが「敬天愛人」の精神で、「水前寺清子の365歩のマーチ」のように少しでも前に向かって歩いていけるように心を合わせていきたいと思っております。

今、母校九学が全国で活躍するのを見て、心を熱く母校愛を募らせ気持ちも若く感じています。

母校の益々の活躍と躍進を祈念すると共に同窓会の更なる発展を願っております。

橋本若手の会会長、山崎同窓会会長、当時の担任などが祝辞を述べ、当時の生徒会長、森総一郎氏がお礼の挨拶をし、記念写真撮影をしてお開きとなりました。

## 「経済交流会総会・新年会」 80名が参加・母校に義援金

1月19日、ホテルキャッスルにおいて九州学院経済交流会総会・新年会が開催されました。新年会に先立ち、地震のため昨年6月から延期になっていた総会が開かれ、昨年度の活動報告・収支決算報告と今年度の活動計画案・予算案が承認されました。新年会に約80名の会員、阿部英樹九州学院院长(S28回)も参加。小杉康之会長(コスギ不動産代表取締役・S30回)は、「復興元年。経済人として、九州学院経済交流会の会員として、熊本復興、母校のために、頑張らましよう」と挨拶



## 「義務制教職員同窓会」を開催

1月5日(木)午後6時からメルパルク熊本において恒例の「九州学院卒業生義務制教職員同窓会(大江剛会長・S34回)が行われました。この会は、義務制である小中学校をはじめ教育委員会やその他の

教育機関に勤務する九州学院の卒業生と、本院の教職員との間の情報交換と親睦を目的としたもので、毎年この時期に行われています。

## 「福岡九学会総会懇親会」を開催 22歳から92歳まで60人が参加

2月5日(日)、博多駅近くの「八仙閣」で福岡九学会(野々口稔会長)の総会・懇親会が開かれ、阿部学院院长、山崎同窓会会長の来賓も含め約60人が参加し、大いに盛り上がりしました。

最年長は92歳の岡本先輩(旧制28回)、最年少は22歳の松原氏(S65回・福教大生)で、歳の差なんと70歳。参加者全員がテーブルごとにステージに上がり、近況や学生時代の思い出話などを語り会場は温かいムードに包まれました。



各地の同窓会・その他(10月~)

- コココーラ九学会
- 市役所九学会
- 阿蘇中部九学会
- 荒玉地区九学会
- ※その他学年同窓会多数開催

## 「奨学生を励ます会」を開催

11月21日(月)、九州学院会議室において恒例の同窓会主催「奨学生・給費生を励ます会」が行われました。

吉岡育英奨学委員長、阿部院長、山崎同窓会会長らが挨拶に立ち、食事のあと奨学生と給費生が自己紹介と決意を表明し、希望進路や誓いの言葉を述べました。

【育英奨学生制度】1981年の同窓会新制部の事業の一環として1983年に育英奨学生制度を制定。同窓生からの基金を原資として事業を展開。2014年より「九州学院ナルドの壺基金」に組み入れ、奨学生のうち特に秀でた者に育英奨学金の支給を行っている。

## 「マスターズ甲子園九学OBチーム」が出場

11月5日(土)6日、西宮市阪神甲子園球場で開催された「マスターズ甲子園2016」本大会に熊本県代表として出場しました。試合は東京都代表の立川高校と対戦した九学OBチームは5対5の仲良く引き分けに終わりました。

青春時代にタイムスリップした参加者達は甲子園球場での秋の一日を大いに楽しんだようです。

## 「羽ばたく同窓生」

ヴォルタリスGMとして活躍 西井辰朗氏(S51回)



この試合で秋原英之副主将(S65回)が、先制の2ランホームランを含む4安打4打点の大活躍をしました。秋原選手は2010年の夏の甲子園で、1年生4番打者で本塁打を打ったスラッガーで、11年春、12年春(主将)として3度甲子園に行きました。

明大進学の後、手首の故障などで苦労しましたが、4年生で副主将となりスタメン入りし徐々に調子上げられて来ましたが、卒業後は(株)ヤマハに入社し、プロを目指します。

## 「九学祭OBの3組が友情出演」

肥後の伝統工芸品「おぼけの金太」を手掛ける厚賀新八郎氏(S14回)が、1月17日県民文化賞を受賞しました。厚賀氏は半世紀以上にわたり「おぼけの金太」を制作し、機会ある度に講座を開くなどして郷土玩具の楽しさを地域社会に伝えて来たことが評価されたものです。

父の新氏(旧中15回)、息子の俊男氏(S50回)と三代が九州学院の卒業生で、2015年には市無形民俗文化財に指定されている新町獅子保存会の獅子頭を、先代に続き30年ぶりに制作したことで知られています。

11月4日(金)に行われた九学祭の校内発表に九学OBのプロ漫才コンビ3組が熊本の復興を願い、ボランティアで出演しました。今回母校を訪問したのは、「ほたるゲンジ」(無法松 塩坂倫之(S



肥後の伝統工芸品「おぼけの金太」を手掛ける厚賀新八郎氏(S14回)が、1月17日県民文化賞を受賞しました。厚賀氏は半世紀以上にわたり「おぼけの金太」を制作し、機会ある度に講座を開くなどして郷土玩具の楽しさを地域社会に伝えて来たことが評価されたものです。